

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 324 号	氏名	佐藤 加代子
学位審査委員	主 査 塚元 和弘 副 査 佐々木 均 副 査 中嶋 幹郎		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、病因不明の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）の発症に関与している疾患感受性遺伝子を同定し、これらの遺伝子多型をバイオマーカーに用いた遺伝子診断への応用を検証したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 潰瘍性大腸炎あるいはクローン病患者群と健常者群を対象に、B 細胞シグナル活性系と B 細胞シグナル抑制系および炎症性サイトカインのシグナル伝達系に関与する 10 個の遺伝子を候補遺伝子とし、これらの多型解析を行い、疾患群と健常者群間で多型の出現頻度を有意差検定した。最後にバイオマーカーとして用いた場合の感度と特異度を算出しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 10 個の候補遺伝子のうち、4 つの遺伝子が潰瘍性大腸炎の、また 3 つの遺伝子がクローン病の疾患感受性遺伝子であった。次に多変量解析でお互いに独立してそれぞれの疾患の発症に寄与していた遺伝子多型をバイオマーカーとして用いて遺伝子診断した結果、潰瘍性大腸炎では「CD72+APRIL」が、クローン病では「BAFF+TKY2」の組み合わせが最もオッズ比と特異度が高く、発症前診断に利用できることがわかった。</p> <p>以上のように本論文は、ヒトのゲノム情報を用いた遺伝子診断研究に、それに続くテーラーメイド医療の実現に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			